Ｇの政治考

Ｇの政治考は
公式サイトで更新中です。
https://gaun-yoshinao.com/

2019.3.13

松本で政治家になるということ

故郷・松本の市長を目指して選挙に挑んで落選し、捲土重来を期した日から、丸3年が経ちました。人生2度目の浪人生活は、ここまで長くもあり短くもありましたが、政治家になるとはどういうことなのか、根本に立ち返って問い直す時間を与えてくれたと感じています。

国宝五城の１つ、松本城は、廃藩置県からまもなく新政府によって競売に掛けられ、天守閣が取り壊される危機にありました。それを救ったのは、弱冠28歳だった市川量造という人物です。松本で最初の新聞を創刊した量造は、天守閣を「博覧館」として残すべきだと訴え、現地を借り受けて博覧会を開催。市民の協力で大盛況となった博覧会の収入で城を買い戻したとされています。のちに量造は、県会議員になり、長野県庁を松本に移転する運動や、松本ー甲府間に私設の鉄道を敷設する計画に取り組みますが、志を遂げることなく、50歳で横浜へ去りました。

松本城は、市民のシンボルであり、プライドです。ただ、全国的に外国人観光客が増えているにもかかわらず、松本城の入場者は、平成28年の99万人をピークに2年続けて減少しています。理由は、はっきりしています。烏城の異名を持つ天守閣の素晴らしさに比べ、その周辺が魅力に乏しいことです。内外の人たちに長時間滞在したり何度も訪れたりしてもらうには、広さも中身も不十分です。市当局は、幕末維新期の城郭を復元すると表明していますが、実際の取り組みは遅々として進んでいません。

松本城を取り囲む外堀は、半分しか現存していません。往時の形に甦らせようと、平成19年に現市長がゴーサインを出した「松本城外堀の復元事業」は、開始から10年余りが経過した昨年秋に、事実上棚上げされました。買収した用地から法律の基準を超える鉛が見つかり、除去費用を賄う手立てが見当たらないというのが、その理由です。これまでに15億円の税金を投入して進められた事業の見通しも責任も、市民の目には曖昧模糊としたまま、時間だけが徒らに費やされる状況になっています。

松本城の外堀を挟んで東側には、建設から60年経った市役所の庁舎があります。前回の選挙が終わった直後に、現市長は、老朽化や耐震性を理由に新庁舎を建設する意向を打ち出しました。立地については、最初から現地以外には選択肢がないかのような情報発信がなされました。さらに、60年前に建設場所をめぐり市民を二分する争いが起きたことを主たる理由に挙げ、議会の慎重論を事実上封印して、1年後には「市役所の現地建て替え」を決定しました。60年に一度、総事業費100億円規模の大型事業です。魅力溢れる松本城エリアの復元・再興という観点から、同時にデジタル化の進展や分散型社会の到来という観点から、この計画は根本的に見直す必要があると考えます。

松本は、城と山のまちです。これからの松本に必要なものについて、自由な議論を巻き起こし、包括的・体系的に評価して決定していくことが、政治家の仕事です。これから1年かけて、それにふさわしい活動を行っていきます。

編集後記

史上初の１０連休となった２０１９年のGW、皆さんいかがお過ごしでしたか？ 初日は気温が急降下し、松本では、季節外れの霜が降りました。翌日の天空には「幻日環」と「環水平アーク」という、たいへん珍しい大気光学現象が同時に見られ、何か願掛けをしたくなるような神々しさでした。時代は、平成から令和へ。歴史を刻み、特別な印象を残したGWになりました。（くり）

臥雲の会　事務局
〒390-0811
長野県松本市中央１丁目 2-24
電話 0263-36-7343
Fax　0263-50-6727
E-mail　info@gaun-y.com

令和元年
2019
5
vol.11

Ｌの視点で、Ｇの時代を穿つ

Ｇ通信

臥雲義尚×リポート

臥雲は日々何を考え、活動しているのか。
その横顔と頭の中を覗けるニュースレターです。

超高齢時代の革新になる

令和と名付けられた時代が始まりました。平成の３０年の踊り場感から抜け出そうという意識がそうさせるのか、「ラ行」で始まる単語の響きに、大勢の日本人が前向きな変化の期待を込めているように感じます。

新たな時代ではっきりしていることは、高齢者の割合がますます高まり、全体として人口が減少していくこと、「老い」との直面です。５６歳になった自分自身は、気づけば走る力が急激に衰えていて、その真っ只中にいることを実感します。

松本は、超高齢時代にどう向き合うか。日本全体では対応し切れない難題に、先陣を切って取り組むポジションにいると思います。最大の強みは、地域医療資源の豊富さです。信大付属病院と相澤病院を中心に、全国平均に比べて、◇診療所が１.２３倍◇医師が１.５４倍、松本市内には存在しています。この状況を最大限生かして、最先端の超高齢時代のネットワークを作ることが、目指す目標になります。

医師、歯科医師、歯科衛生士、介護事業所、作業療法士、ケアマネージャー、福祉器具メーカー等、多業種グループが地域包括ケアのパイロットモデルを作り上げようと、独自に勉強会を重ねています。一方、医療機関ごとに保有する患者情報について、松本医療圏で一元的に管理するプラットフォームを整備し、カルテの共有化などを通じて迅速で適切な診療に役立てることが模索されています。

カギになるのは、デジタル革新です。超高齢時代だからこそ、住民が分散する地方都市だからこそ、タブレットやウェアラブル端末を誰もが活用できる情報インフラと教育環境を、松本が全国に先駆けて整えていくべきです。

こうした基盤整備は、様々な住民サービスを向上させ、市役所のあり方も根本から変えるでしょう。公共交通の充実や観光産業の振興にも不可欠です。人とデジタルが融合したネットワークを構築して、超高齢時代の革新になる。一歩先を進みましょう。

臥雲義尚

“ 人生で何度も何度も
失敗してきた。だから成功した ”
（マイケル・ジョーダン）

＼日々更新中／

臥雲の日常と横顔

Facebook

1月~4月 主な投稿記事

1/12　敵に塩を送る「あめ市」盛況 **a**

1/14　31年ぶり神宮球場でプレー

1/19　**東山山林コースでMTB試乗 b**

1/26　野中元官房長官一周忌に墓参

2/15　堺屋さんが言い遺したこと

2/22　**外堀復元棚上げで市長陳謝 c**

3/ 9　教育映画上映会の企画開催

3/26　イチロー引退会見の醍醐味

4/12　にこにこルームが寿小に定着

4/13　**松枯れ問題の勉強会に参加 d**

4/14　松本市議選に42人立候補

4/21　56歳の誕生日に思うこと

4/27　小雪が舞う上高地開山祭 **e**

a

b

c

d

e

松本で＜原薫 × 鈴木雷太＞の可能性を強く感じるイベントでした。会場は、原さんの林業会社が管理する松本市内田の森林の一角。マウンテンバイクのオリンピック代表監督を務めた雷太さんの指導で、オフロードのＭＴＢを体験しました。キツイけど面白い。ＯＶＥＲ５０の身体は悲鳴を上げそうでしたが、十分に整地されてない山道を走るＭＴＢには、世代を超えた未知数の楽しさがあると感じました。山と自転車、川と自転車。松本がもっともっと開拓すべき魅力の１つです。

周到に段取りを整え、地区の住民以外は発言を認めないとされた昨夜の説明会は、市側の想定通り淡々と終わった。しかし、この４か月間、市長が自ら所管官庁に足を運んで法改正を働きかけたり、市民に直接協力を呼びかけたり、制度の制約を超えようとした形跡は、全く伺えなかった。時間は有限であり、時間の空費はチャンスの喪失である。

松枯れ問題を勉強するために、『人にとって住みよい環境とは？』と題した、信州大学理学部名誉教授・藤山静雄さんの講演を聴く。松枯れ発生の主因である、マツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウの共生と、人間が行ってきた防止対策の限界について、生物学的視点から識ることができた。２時間半にわたる講演で、何を優先して考えていくべきなのか、クリアになった。「害虫を殺せば、被害が必ず減るわけではない。時には殺したことで被害が広がることがある」。見落としていた視点だった。

後援会づくりへ　談論重ねる

地区ごとに足を運び、地区幹事さんの呼びかけで開催している懇談会は、住民の皆さんと膝を交えて語り合い、それぞれの地域の魅力を再発見するとともに、様々な課題を再認識する機会になっています。観光資源の魅力が埋もれる西山と東山、担い手が不足する農作地帯、居住者が減少し役員の担い手が先細る町会、郊外と市街地をつなぐ自転車通学路として安全な道路網の整備など、それぞれの地域にそれぞれの課題があります。頂戴したご意見は、政策作りに生かしていきたいとの思いを強くしています。

次代をになう　若者 x 臥雲

ジセダイと語る 松本のプライド

ジセダイトーク

2/26 「国際人を育てる未来の学校」～世界という選択肢を松本の子どもたちへ～

第２３回は、ＩＳＮ（インターナショナルスクールオブ長野）校長の栗林梨恵さんをゲストに迎え、＜未来の学校＞について考えました。イギリスの大学で心理学と英語教授法を専攻した後、モロッコでの銀行勤務や幼児教育のコンサルタントなど、１４年の海外滞在を経て帰国する。自身の経験から「英語で不自由はさせたくない」と、故郷松本に独力で学校を作ってしまう先見と情熱を併せ持った女性。現在１５５人が在籍し、今春から長野市に第３の校舎を開設し前進を続けます。

3/27 NEO「松本に議論を巻き起こそう」～再考 城と山のまち～

２４回を重ねた「ジセダイトーク」。松本の課題を取り上げ、ゲストを招き「松本のいまと未来」を語り合い、積み上げられたものは、この３年間の財産です。多事争論にこだわるのは「自由にモノを言える社会が活況を生み出す」と考えるからです。議論のための論争ではなく、政策の柱を立て、皆さんと作り上げていきたいと考えています。「松本をこうしたい」のために、議論を尽くし、コンセンサスを得る。このプロセスを大切にしたい。臥雲義尚の政治スタイルです。

臥雲の Facebook コメントより

英語と日本語の双方を習得するバランスを取りながら、不確実な未来を生きていくチカラを伸ばす教育に、大きな可能性と希望を感じました。こうした教育は、地方の公立校で可能なのか。地方でこそ可能にしなければいけないと思います。実現するためにはどうしたらいいかを考えることが、政治の仕事です。松本から世界へ、日本人らしい国際人を。公教育を多様化することに、取り組んでいきます。

２０２０年３月まで残り１年という節目で、未来の松本をどうしたいと考えているのか、じっくりと話をさせていただきました。◆これからの松本に必要なことは、活況・先進性・国際化。◆市役所を建て替えるということは、６０年に一度まちづくりを見直すチャンス。◆キーワードは、住民自治・分散統合・デジタル。◆三の丸を含めて、世界に誇れるわれらの松本城を創る。◆松本全体を考える視点を忘れない。自由な議論を通じて、みんなの共通了解をつくる。その新たなスタートです。

＼ 西部ブロック集会 「ジセダイの松本が令和の時代を拓く」／

平成の時代の終わりに、松本市では、東筑摩郡との合区による県議選、４２人の候補者で争われた市議選が行われ、それぞれ新しい議員が選出されました。とりわけ西部ブロックでは４人の新人市議が誕生し、時代の転換を実感させる選挙となりました。この節目の時、臥雲義尚と西部ブロックの新人議員を中心に、地域が抱える問題を掘り下げて、令和の時代の松本について語り合う集会を開催します。

日時：令和元年６月１日(土) １４：００～１６：００
場所：松本市波田文化センター「アクトホール」　※詳しくは事務局まで